

仙台市放課後子ども総合プラン実施方針の取組みに関する提案（案）に対する意見について

項目			委員名	①委員会 ②意見票	意見	方向性
P. 1	1 はじめに		梨本委員長 長内副委員長	②	➤ コロナ前とコロナ後を見据えた議論のためには、子どもの成長をどうとらえるか、そのためにどのような機会や環境が必要なのか、「そもそも」の原理原則に遡って整理する必要ではないか。遊びや様々な体験を含む放課後の子どもの活動は、学校での教科指導と切り離すことなく、その関連を通して子どもの全人格的な発達を捉えていく必要があるが、コロナ禍による行動制限が子どもたちの発達に大きく影響したことを記述すべきではないか。	1 に追記するとともに、8 の本文も修正する。
P. 2	2 委員会における審議経過		三浦委員	①	➤ アンケート調査の実施について、ここに明記すべきではないか。	4 を削除し、③として追記する。
P. 4	3 コロナ禍における両事業の運営と感染症対策	3. 1	柴田委員	①	➤ 両事業の休止等の対応状況について、違いが比較しやすいよう表にすることはできないか。	対応状況を表にする。
			小岩委員	①	➤ 緊急事態宣言等に加えて、市のガイドラインの改定についても表に含めた方がいいのではないか。	
			宮野委員	①	➤ 市のガイドラインは、三十数回ほど改定しているため、全て載せるのではなく、両事業の運営に影響を与えたものを抜粋して載せたほうがいいのか。	
P. 7	4 コロナ禍における両事業の課題	4. 1 (2)	柴田委員	①	➤ コロナ禍における課題で、児童同士の適切な距離の確保に関する記述があるが、コロナ禍以前より児童数の増加により、児童一人当たりの面積の減少したことが、コロナ禍でさらに距離を確保しなければいけない状況となり、その課題がより顕著になった等、もう少し具体的に記述すべきではないか。	委員会内の協議により、修正しない。
			小岩委員	①	➤ サテライト室を設置するなど、児童数の増加への対応策を講じているため、これ以上具体的に記述する必要はないのではないか。	

項目			委員名	①委員会 ②意見票	意見	方向性
P. 10		4. 2 (2) ①	梨本委員長 長内副委員長	②	➤ コロナ禍によって、地域の協力を必要とする放課後子ども教室の事業運営は、児童クラブと比べても深刻な打撃を受けたことを記述すべきではないか。	追記する。
P11		4. 2 (2) ②	梨本委員長 長内副委員長	②	➤ コロナ禍による休止が子どもたちの発達に及ぼす影響や感染対策の有効性について、学校と地域の活動者とが協議する場を設けることなど、再開に向けた道筋についての理解を共有することが課題となった旨記述すべきではないか。	追記する。
P. 12～	5 今後に活かしていくべき取り組み	全体	小岩委員	①・②	➤ コロナ禍以前から取り組んでいるものもあるため、これまでもやってきた工夫とコロナ禍での新たな工夫を別枠で取り上げることはできないか。 ➤ コロナ禍以前より取り組んでいる取り組みをコロナ禍でより工夫した事例について、「参考事例」として取り上げてほしい。	意見票での意見も踏まえ、大見出しと中見出しの間に追記する。
			梨本委員長	①	➤ コロナ禍により新たに始めた工夫と、それ以前から取り組んでいたがコロナでより重要性が増した工夫が双方含まれているが、それを分けて記述することは難しいのではないか。	
			三浦委員	①	➤ 5 の大見出しと 5.1 の中見出しの間に、コロナ禍という状況の中で、従前からの取り組みと、コロナ禍に対応するために新たに始めた工夫があったということを文章で記述するだけでもわかりやすくなるのではないか。	
			三浦委員	①	➤ 図表や事例紹介のところは、固有名詞（児童館名・放課後子ども教室名）を使用する使用しないは統一すべきではないか。可能であれば入れていただきたい。	固有名詞（児童館名・放課後子ども教室名）を追記する。
			梨本委員長	①	➤ 今後の参考にするという意味では、固有名詞を入れていただいた方がわかりやすいのではないか。	

項目			委員名	①委員会 ②意見票	意見	方向性
P. 13		5. 1 (2)	柴田委員	①	➤ 保護者対応について、具体的にどのように意識して対応したのかが分かりにくい。5. 1 (2) ① (ウ) に対応する取り組みだと思うので、比較できるような記述にいただいた方がいいのではないか。	具体的な記述に修正する。
			梨本委員長	①	➤ コロナ禍での工夫をアンケートから読み取れるものがあれば記述し、なければ追加の意見聴取を行い、より具体的な記述にすべきではないか。	
P. 16		5. 3	三浦委員	②	➤ 見出しを「職員の業務及び研修状況について」とするとともに、業務内容に関する記述を研修に関する記述よりも先に取り上げるべきではないか。	委員会・意見票の意見を踏まえ、見出し・本文を修正するとともに、(1)と(2)を入れ替える。
			小岩委員	①	➤ 研修のオンライン化の一番のメリットは、全員で受講することができるようになり、受講後にその内容を全員で議論できるようになるきっかけを作ったことだと思うので、その点を書き加えていただけないか。	
			梨本委員長	①	➤ 本文の加筆とともに、見出しを修正すべきではないか。	
P. 18	6 今後に残された課題	6. 1	堀越委員	①	➤ 「児童の生活の場・遊びの場として、～、今後十分な検討が必要といえるでしょう。」とあるが、コロナ対策は十分にやってきているので、これ以上何を検討すればいいんだろうと感じてしまう。	委員会・意見票の意見を踏まえ、修正する。
			小岩委員	②	➤ 「児童の生活の場・遊びの場として、～、今後十分な検討が必要といえるでしょう。」について、児童館運営においては重要な視点であるため、今回の好事例を事業運営に活かすなど、より良い事業運営に向けて、今後も検討すべきである旨記述してほしい。	
			梨本委員長	②	➤ 1に関連し、遊びと学びを切り離さない視点が重要であるため、最終段落の3行目「子どもたちの遊びを充実・・・」の「遊び」を「遊びや体験」にした方がいいのではないか。	

項目			委員名	①委員会 ②意見票	意見	方向性
P. 19		6. 2	堀越委員	①	➤ 当法人で実施する宿泊を伴うプログラムに多くのニーズがあることから、保護者はもちろん、子どもたちがコロナ禍で失われた実体験の場に飢えているのではないかと感じている。	委員会・意見票の意見を踏まえ、修正する。
			梨本委員長 長内副委員長	②	➤ 活動再開に向けた助言、相談の機会を設ける、学校との意見交換を促すといった地域住民の活動を手厚く支援する行政の役割がより重要になることを記述すべきではないか。	
P. 20	7 おわりに		三浦委員 梨本委員長	①	➤ 新型コロナウイルスに限らず、今後も様々なリスクは起こり得る。そのようなときに、今回のコロナ禍での経験を活かすために作られた報告書であるということをわかるようにした方がいいのではないか。	委員会・意見票の意見を踏まえ、修正・追記する。
			小岩委員	②	➤ 好事例を今後の事業運営に活かし、より良い事業運営を目指すべきであるという方向性を示す記述にしてほしい。	
			梨本委員長	①・②	➤ コミュニティ・スクールについては、市全体の取り組みとしてどのように見ていくのかということを記述することは難しいのかもしれないが、放課後子ども教室がコミュニティ・スクールとどのように関わっていくのか等、もう少し記述できないものか。	追記する。
	その他		柴田委員	①	➤ 自由来館の表記を統一すべきではないか。	「小中高生の自由来館」で統一する。
			高橋（由）委員	①	➤ オンラインのメリットもあるが、最近ではコロナ禍以前のように人と人々が集まって開催することの良さが見直されてきている。	—